

〈原 著〉 胃癌, 大腸癌の再燃に対する手術治療の適応と効果

横浜赤十字病院 外科

森脇 義弘, 山中 研, 小金井一隆, 呉 幸宏
関沢 良行, 工藤 啄也, 森田 修平

The Surgical Treatment for Intraperitoneal Invasive Relapse of Gastric and Colorectal Cancer

Yoshihiro Moriwaki, Ken Yamanaka, Kazutaka Koganei,
Hiroyuki Kure, Yoshiyuki Sekizawa, Takuya Kudo and Syuhei Morita
The Department of Surgery, Yokohama Red Cross Hospital

Reprint requests: Yoshihiro Moriwaki

Department of Surgery,

Yokohama Red Cross Hospital

2-85 Negishi-cho, Naka-ku, Yokohama, 231 JAPAN

索引用語: 1. 腹腔内浸潤性再発

2. 再発巣姑息的切除

3. 再燃胃癌, 再燃大腸癌

はじめに

胃癌, 大腸癌は, 早期癌の増加に伴い治療成績も向上してきたが, いまだに, 進行した状態で発見され, 非治癒切除に終わる症例もまれではない。非治癒切除となった症例に対しては, 補助療法, 集学的治療として化学療法などの併用療法も行なわれるが, 著名な効果が期待できる併用療法やその対象となる症例は少なく, 術後症状が出現した時点で対症療法が行なわれるに留る場合が多い。特に, 術野の局所再発や腹膜播種, リンパ節転移再発で周囲への浸潤を伴った腹腔内再発(以下, 腹腔内浸潤性再発)に対しては系統的, 効果的な治療法は少ない^{1)~4)}。多くの症例では, 再燃の症状が生じた時点で再入院となり, 種々の治療を試みるものの有効な対症療法もないまま退院できず, 結局は在院死亡となるのが現状である。

手術療法も, 初回手術が非治癒であるため根治性は望めず, 意味がないとする考えも多い^{2),5)}。われわれの施設では, 腹腔内浸潤性再発による再燃に対しても, 積極的に手術療法, 特に外科的切除を行なってきたので, その適応と効果について検討し, 2, 3の知見を得たので報告する。

対象と方法

横浜赤十字病院外科で過去10年間にあつかった癌再燃のうち, 肝臓を含めた血行性遠隔転移再発, 縦隔や頸部のリンパ節転移再発以外の腹腔内浸潤性再発巣に対して手術を行った再燃胃癌13例, 再燃大腸癌17例を対象とした。なお, 再燃とは非治癒切除後, 再発巣切除後に症状が発症, 新たな再発巣が出現したものとした。再燃は自覚症状, 理学所見, 画像所見, 血中腫瘍マーカーの上昇, 生検や再手術の所見で判断した。初回手術, 再燃の記載は, 胃癌は胃癌取扱い規約第11版⁶⁾, 大腸癌は大腸癌取扱い規約第3版⁷⁾に従った。さらに, 腹腔内貯留液を既報のとおり4段階で表し